ライフケアガーデン熱川　本館

症　例　概　要　利用者：90代　女性　要介護1

病名　　：認知症、高血圧症、両膝変形性関節症

A県出身。伯母の養子となったことを機に10代の頃都内へ移住。2004年7月、要介護5の夫とともに当施設入居。夫は翌年2005年11月逝去される。

コロナ禍を経ながら大きな怪我や病気にかかることなくご家族や職員との外出等、当施設での生活を長年楽しまれてきた。

2024年5月、蜂窩織炎により入院。翌月退院するもADL低下著明。食欲低下、意欲低下がみられ表情は暗くなっていた。当施設での生活歴を踏まえ職員一丸となって入居者さんの状態回復に努めた結果、ADL向上を認め当施設での生活を再び笑顔で楽しまれるようになった事例。

内　　容

退院当初、入居者さんは活気がなく、別人のように感じられるほど心身の状態が低下していた。入院前は自立した生活を送っていたが、退院後はトイレや入浴に介助を要し、車椅子が中心の生活となった。ご家族からは「入院前のような生活を送ってほしい」と希望があるもリハビリへの意欲は乏しく、食事の声かけにも「食べたくない」と拒否が続きADLは日々低下していた。

このような状況を受け、生活歴をよく知る職員を中心に入居者さんが当施設で楽しみにしてきたものに着目した関わりを進めた。かつて当施設で飼育していた犬を特に可愛がっていたことから、職員が自宅の犬を連れて触れ合いの機会を設けた。また、ピザやハンバーグが大好きで、ご家族との外出時にもよく召し上がっていたことから、お楽しみとしてピザを提供したり、買い物代行時に購入を提案するなど、部署を越えて入居者さんの好みや個性を反映した取り組みを実施した。

次第に入居者さんの表情には明るさが戻り、リハビリへの意欲も芽生えてきた。車椅子から歩行器、杖歩行へとADL向上を認め、地域イベントへの参加や外食など、日常生活を再び笑顔で楽しまれるまでに回復された。

多職種が入居者さんの生活歴や個性を共有し協働した結果、ADLの向上だけではなく、自分らしい生活を取り戻された本事例をキラキラ介護賞に推薦する。

【多職種の関わり】

【看護】入院時より入居者さんの状態を病院と共有し、退院後のケア方針を策定・各部署へ周知。

退院後は体調・表情の変化を観察し適切な医療的ケアと健康管理を継続した。

リハビリ意欲の低下については理学療法士と連携し、改善に向けた多職種での検討を行った。

【理学療法士】リハビリへの意欲が乏しい状況を打開するため、生活歴に精通した職員へ相談。

ご本人の嗜好や個性を中心にした働きかけを行い、リハビリ意欲の向上とADL改善を実現した。

【介護】日常動作について理学療法士と情報共有し、状態に応じたレクリエーションを提案。

介助の際に入居者さんのやってみたいことを伺い、実現に向け外出を企画した。

【施設管理】清掃時に室温や湿度を確認し、体調に影響のない環境整備を継続。

ガーデニングを楽しまれていた生活歴を踏まえ、花壇の植え替えを共に行った。

【食養】買い物代行で購入したピザやハンバーグを召し上がりやすく整えて提供。

ADL向上後には調理を楽しむレクリエーションを実施し生活意欲の向上に努めた。

【事務】入居者さんの生活歴や趣味嗜好をまとめ、各部署へ共有。

犬との触れ合いの場を調整するとともに、ADL向上後は外出先や地域イベントの情報収集と関連部署への共有を行った。